

## 【高等部 国語 実践の概要】

○高等部1年 国語 (単一障がい学級)

○本時の題目：「TOKYO2020をネット記事から振り返ろう」

○本時の目標：

- ・インターネットを活用して、ネット上にある記事から必要な情報を調べたり、辞書アプリを用いて読めない言葉を調べたりすることができる。(知・技)
- ・記事から文章を読み、伝えたい内容に関するキーワードや文章に着目し、読み取った内容をワークシートに整理し、要約することができる。(思・判・表)

授業者のねらいとしては「前時に関心のあるネット記事から内容を読み取ることをしたので、本時では、オリンピックに焦点化し、オリンピックの中から関心のある記事を選び、内容を読み取れることができるようにしたい」というものであった。授業では、8月にオリンピックが行われた種目をあげ、興味のある種目について聞くと、バドミントンに興味があるということがわかった。そこでタブレットを用いて、オリンピックのバドミントンについての記事を調べ、内容を読み取り、ワークシートに記入することで、授業を終えた。

## 【良かった点・工夫されていた点】

○生徒にとって身近なものであるネット記事を教材にしていた。

○生徒一人で考えるのが難しい場面において、教師との対話を行うことで、自分の力で記事を読み取ろうとする姿が見られた。

## 【課題】

○バドミントンをするには興味を持っていたが、オリンピックのバドミントンの競技にはあまり興味が無い様子であった。実態の把握が十分できていなかった。

○『読むこと』の内容であったが、最終的には『書くこと』がメインになってしまい、記事を読むことよりも、書くことに時間がかかっていた。

○ネットの記事を用いることは、生徒にとって身近なことでよかったが、ネットの検索の仕方を教えたかったのか、読解の力を身に付けさせたかったのか曖昧だった。

○「刺激」という言葉に生徒が反応した場面で、すぐに教師が「刺激とは」と説明してしまい、意味を調べる機会を奪ってしまった。

## 【助言】

○主体的な学びになるには、その学びが自分事として捉えられるかということが重要である。オリンピックを見ていなかった生徒にとっては、この内容は主体的に取り組みにくいものだった。前時の流れから、自分で詳しく調べたいことを更に焦点化した方がよい。

○どのような資質・能力の育成を図るのかをもう少し焦点化するとよい。記事を読み取るには読解力が必要で、そのために、どのように内容を配列すればよいのか検討する必要がある。

○疑問に対して教師がすぐに教えてしまい、生徒の考える機会を失わせている場面があった。生徒が思考し解決する場面、支援をする場面を明確にすること。

◎授業後、対象生徒と以下のような話をした。

私：「今日の授業はどうだったかな？」

生徒：「難しかった。もっと短い文章の方がよかった。」

私：「前の時間は東京リベンジャーズについて調べたんだよね。その時はどうだった？」

生徒：「東京リベンジャーズは結構好きだから、いろいろ調べることができた。」

この生徒の発言を教師はしっかり受け止め、生徒の言葉で授業を振り返り、生徒との対話を通して、学びたいことは何かを明確にしながら、次の授業構想をしていくとよい。『教師の教えたいこと』と『生徒の学びたいこと』に差がないことが主体的で対話的な授業の鍵となる。またネットの記事を読む学習では、実際に生徒たちが記事を読む状況が想定できているのか、生活への汎化の視点をもって、授業を進めていくとよい。